



改修前のトイレと手洗い所：パラチナール市 (KP州)にある病院

ジェンは、パキスタンのKP州のクラム地区で、水と衛生の状況改善の支援を続けています。これは、戦闘で避難した後に故郷に戻った帰還民の方々が、そのまま故郷に定住できるようにするための事業です。この事業で、20の小学校と14箇所の診療所を対象に水源を保護し、供給ラインを新設し、水質を検査することによって、帰還民の方々の安全な飲み水へのアクセスを確保できるようになります。そして、住民の方々が、このアクセスを自力で継続的なものにするために、維持管理の研修なども行います。約5万人弱の方々の安全な飲み水が確保される見込みです。



改修後のトイレと手洗い所：パラチナール市 (KP州)にある病院

新型コロナウイルスが拡大しており、衛生教育は重要な支援活動となっています。手洗いやうがいの大切さと感染症などへの予防知識を得て、少しでも感染を防げるように支援を続けます。

飲み水の確保が健康な暮らしへの第一歩

ハイバル・パフトウンハー (KP) 州のクラム管区で水衛生状況の改善を続けます

『コロナと共に』生きていく



パキスタンで活動する同僚のご家族が新型コロナウイルス(以下、新型コロナ)に感染し、一時重篤とられた。ご家族は、その後回復し、今は、元気に療養されている。同僚自身は長年、世界各地での水と衛生の事業に従事し、衛生教育のエキスパートでもある。だからこそ、世界的な感染拡大のかなり前から自身も予防し、改めてオンラインの新型コロナ感染予防の研修を受講し、家族や友人にも、繰り返し予防を訴えていた。そんな折のご家族の発症で、落胆も大きかったと思う。ある程度の社会生活をする上で、無症状の陽性者が存在するならば、避けられない場合もあると思い知った事例でもあった。

新型コロナは、想像以上に身近にある。様々な予測がなされているが、最終的には、『コロナと共に』生きていくことになるという考え方が有力だと感じている。地球上でのウイルスの歴史は、人類の歴史よりもはるかに長く、『新型コロナを撃退する』という考え方自体に無理があるのではない。自分にとって不都合なものを、すべて敵とみなして排除を試みるのではなく、敵でない存在になる様に取り組む方法を模索することは、紛争解決など他の場面でも役立つのではないだろうか。

JEN理事・事務局長

木山 啓子

簡単に参加ができる寄付プログラム

去年の未使用年賀ハガキ、書き損じのハガキはありませんか？

あなたの未使用の(書き損じた)年賀状や官製ハガキ(郵政ハガキ)または、未使用切手をJENの東京本部にお送りください。JENの支援活動のために活用させていただきます。



〒107-0052

東京都港区赤坂7-5-27-305

特定非営利活動法人ジェン「ハガキ・切手係」

使わなくなったアクセサリや、カメラなどは…

お宝エイド

<https://www.jen-npo.org/otakara-eido/>



読み終えた本や、DVD、ゲームソフトは…

BOOK MAGIC

<https://www.jen-npo.org/bookmagic/>



ファッションアイテムはご寄付も購入も支援に…

Fashion Charity Project

<https://www.jen-npo.org/fcp>



※本誌掲載の記事、写真、イラストなどの無断転載は固くお断りいたします。
※QRコードを読み取る際、無料アプリをお使いの方は、アプリによって広告が表示する場合がございます。間違って広告をクリックされないようご注意ください。

東京本部事務局の住所について

特定非営利活動法人ジェン(JEN) 東京本部事務局

〒107-0052 東京都港区赤坂7-5-27-305

TEL : 03-5114-6201 FAX : 03-5114-6202

ホームページ <https://www.jen-npo.org/>

NPO JEN

Japan.Emergency.Ngo

@NGO_JEN



このニュースレターは継続可能な森林管理のもと生産された原料で製造された紙、FSC®認定紙を採用しています。



新型コロナウイルス 緊急支援を実施しています

新型コロナウイルス(以下、新型コロナ)の感染拡大は、世界中で深刻な影響をもたらしています。

ジェンの国内外の活動地でも、食糧の購入にも困難をきたす世帯が出ています。

新型コロナの感染拡大を防止するため、パキスタンも含め、ジェンの職員は、現場に行くことを極力控えています。

それでも、支援を継続できるのは、コロナ禍が始まる前に構築できた現地の方々とのネットワークがあるからです。

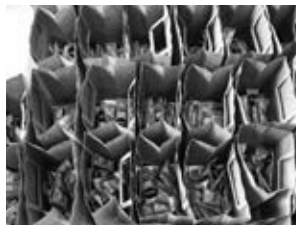
現地の方々の生きる力を最大限に活かして支援活動を続けています。

皆さまのご協力が必要です。どうぞよろしくお願いいたします。

活動内容 宮城県

ジェンは5月1日より宮城県内で子ども食堂事業を展開する、せんだい子ども食堂さんとパートナーシップを結び、緊急支援を実施しております。

せんだい子ども食堂さんの「ともに食事を囲むことはお腹を満たすだけでなく、生きる力を高め合うことに繋がる」という趣旨に賛同いたしました。現在、ひとり親世帯50世帯を対象に、食料品の宅配と、子ども食堂を利用した子ども達との文通事業を支援しています。また、事業継続の重要性から団体の基盤強化を支援することで、循環の仕組みを作ることをサポートしています。



食材の宅配の仕分け作業の様子



「白ヤギプロジェクト」(文通)のお手紙



5月に食糧の配布をしたときの様子



昨年の地震により自宅が崩壊し、仮設テントで暮らしてる

活動内容 パキスタン

ジェンの活動地パキスタンのカシミール地方ミルプール県では、2019年9月の大地震と新型コロナという二重の被害を受けたため、被害を受けた方の中でも特に深刻な状況にある254世帯に食糧と衛生用品を提供しました。配布の際は、新型コロナへの対策をし、各世帯のテントの前に置いて、直接の接触を避けて行いました。地元の方々が積極的に手伝ってくれたことが、配布の成功を支えてくれました。今後も緊急支援と共に衛生啓発を併せて行つてまいります。ジェンはコロナ禍にあっても工夫して、生きる力を支えるための支援を続けます。

今年1月中旬から実施してきた「パキスタン・カシミール地方ミルプール県の地震被災者のための防寒対策物資の提供および心理社会的サポート事業」が完了致しました。深刻な地震被害を受けた640世帯を対象に、緊急支援物資として、防寒テント、プラスチックマットレスやプラスチックシートを配布しました。同時に、地震で被災しゼロからの再建に不安を抱えている人々に、コミュニティで心理社会教育セッションを実施しました。これらは、ジャパン・プラットフォームおよび皆様からの温かいご支援により、実施することができました。心より御礼申し上げます。



ジェンは、心理社会教育関連のIEC資料を、ミルプール県サムウォール・シャリフのメンバーに手渡すことができました。

の使用状況を確認するなど事業を継続することが出来ました。心理社会教育セッションは、FMラジオ放送、地元テレビやソーシャルメディアなどの代替手段に切り替えて引き続き実施することができました。また重度の心理社会的苦痛を抱えている被災者を専門家や関係者に繋ぐ「住民の窓口」としてジェンの学習会で勉強をしたメンバーが冊子配布をサポートしてくれました。地震被災者が防寒テントによって寒さをしのぎ、心理的な苦痛から抜け出す方法を学び、状態の重い方は専門家につなぐ、という、こころのケアに重点をおいたこの事業を、地域住民のご協力を得たことで無事完了でき、感謝しています。

7月1日にジェンから丸森町への非接触式体温計40台と酸素飽和度計10台の贈呈式が丸森町役場で開かれました。贈呈式には、丸森町の保科郷雄町長、丸森町役場総務課・保健福祉課職員の皆様とジェンの共同代表理事の川北秀人が参加しました。ジェンは令和元年台風19号の後、微力ではありますが、丸森町の災害後の復興に貢献するため、丸森町災害ボランティアセンターの運営のお手伝い、そして、防災・コロナ禍の避難に関する研修活動に従事してまいりました。コロナ対策にかかる勉強会を行う過程で、避難所での感染症対策で必要となる非接触式体温計と酸素飽和度計の必要性を認識し、これらを寄贈させていただくことになりました。



オンラインで贈答式を行いました。右、左共に丸森町の様子。画面に映っているのはジェン代表理事です。



災害に備える丸森町

カシミール地方地震 越冬支援事業が完了

あなたのお力を貸してください。

「新型コロナウイルス緊急支援」のご寄付はこちらから
<https://sforce.co/3if90Tv>

